

文太長者

——鹿嶋市



むかし、鹿島大明神の大宮司の家に、文太という働き者の使用人がいました。正直で明るい性格なので、みんなから好かれていました。

とある日、文太は急に大宮司に仕事を辞めたいと言い出しました。大宮司が驚いて訊を聞くと、「自分も三十歳になりますので、一人で仕事をしてみたいのです」と言いました。大宮司は少し考え、「よし、思うようにやってみなさい。ところで何をやるんだね?」と聞きました。すると文太は「塩作りをしてみようと思います」と答え、大宮司の家を出ていきました。

文太は、海水を樂に運べて、塩作りに使う薪がたくさん取れる、浜と山が近くにある場所を選んで塩作りを始めました。常陸の国どころか、下総、武藏をはじめ、甲斐や陸奥の国から買いに来る人もいて、使用人もついに百人になりました。そしていつしか「塩焼き長者の文太」と呼ばれるようになりました。

名を文正と改め、近くの村の豪族の娘と結婚し、幸せに暮らしました。ただ、子がいなかつたので、夫婦で相談して鹿島大明神に願掛けをしました。すると、翌年女の子が生まれ、翌々年には、もうひとり女の子が生まれました。一人ともそれは美しい娘に育ちました。

娘たちの噂は遠く都まで知れ渡り、姉の蓮華御前は、関白殿下的息子の中将殿のお嫁になり、妹の蓮御前は、帝のお后となりました。文正夫妻はとても喜びました。ついには文正も都に上がるようになると、御達しが来たのです。文正は住み慣れた浜を離れるのが辛かったのですが、帝や中将殿も熱心に勧めたので、夫婦して都に上りました。

その後文正は、大納言というたいそうえらい位に出世したそうです。

鹿嶋は歴史深く、海や北浦の魚、野菜や果物など名産品も多いところです。春の息吹を感じながら、散策してみてはいかがでしょうか?



*下総：現在の千葉県と茨城県の一部／武藏：現在の東京都と埼玉県と神奈川県の一部
※関白：現在の山梨県／陸奥：現在の東北地方
※甲斐：成人の天皇を補佐する官職

（参考文献）読みがたり茨城のむかし話（茨城民俗学会編・株式会社日本標準発行）

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>